人に観仏三昧経・摩耶経をとくべからず。無縁の悪人・謗法の者に秘法をあたえずば、覚徳比丘は無量の破戒の者に涅槃経をさづくべからず。不軽菩薩は誹謗の四衆に向ていかに法花経をば流通せさせ給しぞ。されば機に随て法を説と申は大なる僻見なり。問云、竜樹・世親等は法花経の実義をば宣給ずや。答云、宣給はず。問云、何なる教をかのべ給し。答云、花厳・方等・般若・大日経等の権大乗・顕蜜の諸経をのべさせ給て、法花経の法門をば宣させ給はず。問云、何にをもつてこれをしるや。答云、竜樹菩薩の所造の論三十万偈。而ども尽て漢土・日本にわたらざれば其心しりがたしといえども、漢土にわたれる十住毘婆娑論・中論・大論等をもつて天竺の論をも比知して此を知なり。疑云、天竺に残る論の中に、わたれる論よりも勝たる論やあるらん。答云、竜樹菩薩の事は私に申べからず。仏記給、我滅後に竜樹菩薩と申人南天竺に出べし。彼人の所詮は中論という論に有べし、と仏記給。随て竜樹菩薩の流、天竺に七十家あり。七十人ともに大論師なり。彼の七十家の人々は皆中論を本とす。中論四巻二十七品の肝心は因縁所生法の四句の偈なり。此の四句の偈は花厳・般若等の四教三諦の法門なり。いまだ法花開会の三諦をば宣給はず。疑云、汝がごとくに料簡せる人ありや。答云、天台云、〈「中論を以て相比すること莫れ」〉。又云、〈「天親・竜樹内鑑冷然にして外は時の宜しきに適う」〉等云云。妙楽云、〈「若し破会を論ぜば未だ法花に若かざる故に」〉云云。従義云、〈「竜樹・天親未だ天台に若かず」〉云云。問云、唐の末に不空三蔵一巻の論をわたす。其名を菩提心論となづく。竜猛菩薩の造なり云云。弘法大師云、「此論は竜猛千部の中の第一肝心の論」と云云。答云、此論一部七丁あり。竜猛の言ならぬ事処々